

■懇話会、検討委員会等での意見について

題目	懇話会での意見等	庁内検討委員会での意見
理念について まちづくりの	<ul style="list-style-type: none"> ●外国の方と共生するためのコミュニティを形成するような投資や政策を行って行って欲しい。 ●地元企業との交流などの取り組み、つながりを作っていくことも重要。 ●精華町の特徴（精華町にしかないもの）として、旧住民、新住民、学研都市の進出企業（最先端の技術など）、自衛隊（防衛省）があり、それを「融合」し理念としてまとめあげることが大切ではないか。 ●災害時だけ役立つ機能はあまり意味がない。平常時からそれがどう役立つのか考えておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●第5次総合計画の土地利用の観点から「山のゾーン」と「ふれあいのゾーン」の間に位置することから、自然とふれあい人々が交流できる空間形成が求められる。 ●学研狛田西・狛田東地区が隣接し、文化学術研究ゾーンを主とした開発が進められることから、これらの開発との融合も課題として挙げられる。 ●防災拠点を柱としたまちづくりが前面に出ているが、懇話会において、新旧住民、立地企業、自衛隊、外国の方との交流・融合という意見があり、検討委員会でも農福連携、障がい者サービスの併設、保健センターでの親世代、子ども、高齢者の交流などの話があり、このような部分を付加し、新たな文化を育むということは、防衛省のまちづくり支援事業の内容にも合致するのではないか。
防災食育センターの 構想について	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時にコンビニエンスストアなどが機能すれば良いが、機能しないことも考えられる。炊き出しのことを考えると、学校給食が災害時に機能できればすごく良い。 <p>【精華町学校給食基本構想における基本方針より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒のみならず、その保護者や住民みんなの食育へと展開することができるよう、学校給食センターに調理場を見学することができるスペースの設置のほか、地産地消や食文化に関する情報発信が可能な食育の拠点施設としての機能と施設整備を行う。 ●災害により住民の被災やライフラインの断絶等が発生した場合に、非常食や炊き出し等の提供など、学校給食センターが防災拠点として役割を果たすことができるよう必要な機能を検討し、整備する。児童生徒へは災害時に対応できる防災レシピの紹介や非常食の備蓄など、防災教育を図る。 ●整備時点での必要な規模だけでなく、施設寿命と将来の人口を見据えた施設の縮減や転用などが可能な施設整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会を枠組みとして実施されている食育の取り組みや地産地消を進める為の町学校給食との情報共有の場（あるいは、町行政からの指導の場）として、簡単な調理機能を備えた住民交流スペースを設置する。 ●精華中学校地域では、地域福祉の関係で、農福連携（地産地消で農家の人が障がい者の事業を立ち上げた）の取り組みが行われている。 ●それに連携して、障がいがある方の就労場所として、配達ボランティアや配食ボランティア、さらには授産レストラン等の併設を検討できないか。 ●災害時、障がいのある方の避難場所としては日頃から慣れている場所であると利用しやすいため、平時に授産レストランで就労していれば、精華中学校での避難生活も少しスムーズになる。 ●農福連携で作った農産物を役場などで授産品として販売しているが、授産品販売の施設を併設することも良いと思う。
防災受援施設の 構想について	<ul style="list-style-type: none"> ●議論の中心が南部にあるように思うが、北部地域に目を向け、不足している機能が何か整理する必要がある。 ●防災マップでの浸水域に住んでいる方をどのように安全に逃がすか、避難された方が最初の数日プラス何日間かをどういう形で対応していけるかを考えておく必要がある。そのような際に今回のような防災拠点があれば役立つし、自衛隊の支援の仕方も組み込めれば良い。 ●受援に関しては、熊本地震の際も課題であったが、施設があれば良いが本当に運営できるかは難しいところである。 	<ul style="list-style-type: none"> ●打越台の活用を開発と連携して進めることにより、町と開発事業者、双方のメリットに繋がると共に、そのような施設があることは開発地域に対して付加価値が生じることになり、開発の促進に繋がると考えられる。 ●打越台と民間開発地のアクセス道路については、従来から平和道路としての位置付けがあり、構想に位置付けて整備を実施していく必要があるのではないか。また、そうすることで、点では無く、線的、面的な整備イメージとして位置付けができると思う。 ●村から町へ又、学研都市の中心地として発展して来た精華町の変遷を自治会や祝園弾薬支処も含めて紹介するブースを新設。町の紹介に併せて、地域自治に取り組んできた地域コミュニティ・自治会の紹介の場とする。 ●打越台に災害ボランティアセンターの機能を付加することについて検討事項となっていたが、所管である社会福祉協議会としては、現状の計画のままかしのき苑を利用していくとのことである。ただし、現状で機能的に十分という訳ではなく、ボランティアセンターとしての機能充実や再編を来年度以降で検討している。 ●打越台を受援施設にということであるが、受援にも様々あり、消防の援助隊、自衛隊、D-MAT、ボランティア、すべてが受援であり、特に問題となるのは支援物資の保管場所である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●精華町にも保健センターがあるが、建物を借りている状況であり、拠点となるべき施設がない。健康、保健、食育を含めた福祉の拠点、高齢者から子どもも含めた健康に関する拠点、これらの総合的な拠点があればと思う。 ●災害派遣経験のある自衛隊の方に来ていただいて講演等をしていただければ、防衛施設のある町として隣の町にはできない防災研修ができるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在、事業連携の課題や施設に関する課題の解決を目的とし、「健康総合拠点のあり方検討会議」を設置し、今年度中に基本構想の策定予定である。災害時には、医療関連の受援機能を付加することも検討しており、まちづくり基本構想とも関連が出てくると考えられる。 ●災害時には、他の自治体から応援の職員が派遣されてくることになるが、その受け入れについても計画がない。宿泊場所等も含めて検討しておく必要がある。 ●災害時の必要な機能の1つとして、災害廃棄物の仮置き場についても認識を持っておく必要がある。災害復旧を行うには、災害廃棄物を撤去しないことには始まらない。